

## ご紹介します

### 平和祈念公園、平和の礎を訪れ参拝された方からのメール

公園や平和の礎の指定管理者として、たいへんありがたい  
お言葉をお寄せくださいました。

ご本人様のご承諾の下、ご紹介いたします

平和祈念公園・平和の礎 指定管理者

公益財団法人沖縄県平和祈念財団

お礼が遅れまして大変申し訳ございません。

質問につきましては沖縄県平和祈念財団の久保田様よりお返事を頂いておりました。ありがとうございます。

1月28日(日)に予定通り伯父に挨拶をすることができました。一昨年に亡くなった母も喜んでくれていると思います。

以下は平和祈念公園を含め初めて訪れた沖縄のことを記させていただきます。長文となりますが省略されるか読み捨てて頂ければ幸いです。

まずは平和祈念公園。想像を超える広さと美しい環境。こんな素晴らしいところで弔われている伯父は他の地域で亡くなられた人々より少しだけ幸せかもしれない(この時は平和の礎の主旨をよく理解しておりませんでした)と思いました。

伯父の名を探そうと歩みを進めていくと、徐々に慄然としてまいりました。あまりの名前の多さからです。ここに書かれている人たちはあの戦争の日々から時を止められてしまっている。自然と涙があふれてきました。東京のところで伯父の名を見つけることができ、手を合わせてお祈りいたしました。

母は兄、伯父のことが大好きで誇りにさえ思っていました。運動神経抜群で音楽もでき、だけど所帯を持った人たちを戦場に送るわけにはいかないと志願して出兵されたそうです。所属も何も分かりませんが高射砲の部隊だったそうです。子供が好きで生きていればさぞかしお前も可愛がってくれたらろうと何度となく聞かされました。

一つ気になることがあります。それは日本人についてです。平和祈念公園に向かう際、定期運行バスを利用しました。驚いたことに直行バスはなく、乗り換えです。それも乗り継ぎ。糸満ターミナルについたところで聞くと5分ほどまえに出て1時間に1本きりとのこと。仕方がないのでそこよりタクシーに乗りました。不便さに驚いたのではありません。平和祈念公園は全国的に存在は知られております。沖縄といえば首里城、那覇の国際通り並みに有名です。バスは営業運転ですから乗降客が多いところなら路線を作るはずで。ということは、…有名ではあるけれど訪れる旅行者は少ないこととなります。日曜日なのに観光バスは何台かありましたが、広い駐車場はほとんど空いていました。(たまたま偶然でしょうか?)

平和祈念公園は素晴らしいし、沖縄県平和祈念資料館は2年前に訪れた広島平和記念資料館以上に私にとって内容は印象的でした。広島は確かに交通の便がよいですがそれにしても残念に思いました。

日本人は戦争を罪悪とし、なるべく触れないようにしてきました。例えば戦争について報道されるのは夏のお盆に時期ばかりです。それに比べ他国は頻繁にあるいは毎日祖国のため血を流した兵士を弔っており生活において戦争の悲劇を忘れさせない努力をしています。靖国参拝の是非は私にはわかりませんが、それが他国の配慮のため、または敗戦国の悲哀であるなら、あのとき尊い命を落とされた人たちに対してあんまりではないでしょうか。

できれば老若男女もっと多くの方がここを訪れてほしい、日本人だけでなく中国人も韓国人もアメリカ人も関わりの深い国々の人々と戦争の真実を共有していきたいと願っております。

このように人々の無関心からか米軍基地の移転は一向に進みません。立て続けに生じた航空機の落下物や不時着など、ニュースを見るたびに沖縄県の方々に申し訳なく、東京湾や沖縄以外のどこかで洋上に基地を設けることはできないのだろうかと思ってしまう。関空があるのだから絶対にできるはずです。

東京の塔やひめゆりの塔も行きたかったのですが、時間が押してしまい次回また伺うことといたしました。

2日目はバスツアーで古宇利ビーチ、美ら海水族館などをめぐりました。ツアーなのでそれぞれ2時間から3時間ほどの滞在でしたが、どこも1日以上かけて回らないともったいないほど充実していました。

3日目は帰京の日ですが、午前中をかけて念願だった2番目の目的地、首里城をおとずれました。

話は脱線しますが、私と沖縄の出会いを振り返ってみます。はじめて沖縄を知ったのは歌手の南沙織さんです。長い黒髪に清楚な出で立ち、なのに歌い始めるとパンチのある伸びやかな声。当時小学生だった私はノックアウトでした。こんな素敵な女性がいる沖縄とはどんなところだろうと思いを巡らせました。沖縄国際海洋博覧会もありましたが大阪万博でさえ行けなかった私の家は再びテレビの前で楽しませていただきました。それからしばらく経ちまして高校3年の時、喫茶店でアルバイトをしていた時、謝花さんという年上の女性に出会いました。彼女は同郷沖縄の彼と同棲しており、やがて沖縄に戻ると言っていました。実家からいろいろ送られてくるようで、ハムの缶詰とかハーシーチョコとかいろいろ頂きました。なのに私はなにもお返しをした覚えがありません。美人ではありませんでしたがとても明るくて優しい女性でした。シークワサーもこの時初めて知りました。不思議な名前と甘酸っぱさは味わったことのないものでした。

その次はまた音楽です。ビギン、夏川りみ、キロロ、みんな大好きです。民謡も好きです。意味はわかりませんが、NHKみんなの歌で流れていた、「なんじゃままし、でいやんがほいほい、でいやんがやくしく、でいのんぴのびのび」という曲、私の人生ずっと頭のなかで流れっぱなしです。

友人や同僚にも沖縄出身の方が何人もいました。会社が倒産したり、いろいろあっても会うことはもうないのですが、思い出のなかで、なぜか一人も嫌な人がいないのです。偶然かもしれませんが。私はあまり人づきあいが好きなほうではありませんし、どちらかといえば苦手な方のほうが多いです。なのに一人も嫌いな人がいない。というかみんないい人達ばかり。この人たちを育んだ沖縄という所は一体どんなところなんだろう。ますますあこがれは募るばかりです。

私の父はかつて印刷業を生業としていまして、その当時の仕事仲間であこがれさんという方がいらっしゃいました。小学5年生だった私が切手を集めていると知ると、なんと色鮮やかな琉球切手の詰め合わせをくださいました。その中に守礼門の絵があったのです。私の世代で沖縄といえば首里城よりも守礼門の方を憶えていると思います。これもなぜだろうとずっと思っていました。行って初めて分かりました。お城は国宝なのに軍事基地が近かったため石垣を残すだけの形となったこと。守礼門は被害が奇跡的に少なく早くに再建されたこと。首里城再建は沖縄の人々の悲願であったこと。また、それが今も続いていること。

心もお金も貧しい私はここで2つの驚きがありました。茶室でお菓子とさんぴん茶を頂いたのですが、おいしいさんぴん茶がおかわりし放題なのです。というか減るとすぐに注いでくれました。値段もとても安い。

そして帰る際、入り口で安いと思い100円でコインロッカーを利用したのですが、なんとコインが返ってくるではありませんか。沖縄は観光地です。なんでここそこで儲けようとしないんだろう。昨年、世界遺産に登録されたある施設に行ったのですが、入場料を払って中に入るとさらに見学料やらヘルメット代やら細かく徴収されて辟易しました。沖縄は違う。観光立国として歴史があるからかもしれません。旅行者に対するおもてなしがホテルや街や施設などにあふれています。

自分の人生、子供も巣立ち、健康なうちにとやっとの思いでエイヤッと腰をあげ、夫婦であこがれの沖縄に行ってきました。この旅行は今まで生きてきた中で間違いなく一番うれしかった旅行となりました。死ぬ前に一度行って見たかった沖縄が、死ぬ前に、是非もう一度訪れたい沖縄に変わりました。

平成30(2018)年2月1日